

【テーマ】「DXの理解を深める ～DX基本編～」活動報告

【主催】次世代情報システム検討分科会、大学経営・情報化戦略分科会

日時：2021年7月13日（火）15:00 -17:00

場所：オンライン勉強会

出席者：284名

1. 研究内容

私立大学キャンパスシステム研究会（以下CS研）の2021年度活動テーマは『キャンパス×デジタルトランスフォーメーション ～持続可能な大学を考える～』です。今年度活動をとおして会員の皆様と大学におけるDXについて考えていきたいと思えます。

今回の勉強会の冒頭は富士通総研より国内外の事例も織り交ぜながら、そもそもDXとは何なのか？DXに向かう上でどういったことを検討すべきか？といった基礎知識の情報を参加者皆様と共有いたしました。

その上で、文部科学省の服部様（高等教育局 専門教育課 企画官）をお招きし「ポストコロナにおける高等教育DX」と題し、高等教育が担うべき人材育成と高等教育そのもののDXについて、文部科学省の政策を交えながらお話しいただきました。

勉強会の後半においては、富士通総研や服部様に参加者皆様からの質問にお答えいただきながら、意見交換を行いました。

2. スケジュール

15:00 勉強会開始

ご報告1「大学DXははじめの一步 DXの表と裏」

橋本 尚志（株式会社富士通総研 行政情報化グループ グループ長）

ご報告2「大学等におけるDX事例のご紹介」

佐伯 恵里（株式会社富士通総研 行政情報化グループ シニアコンサルタント）

ご講演「ポストコロナにおける高等教育DX」

服部 正 様（文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官）

<意見交換>

質疑応答形式での意見交換会

事前アンケートと当日のチャットに寄せられたコメントなどを中心に講演者にお答えいただきました。

17:00 勉強会終了

【パネルディスカッションの様子】



4. 参加校 [71校149名] ・参加企業[14社135名] ・参加総数[284名]

青山学院大学[1] 追手門学院大学[4] 大分大学[1] 大阪市立大学[1] 大阪女学院大学[1] 大阪電気通信大学[2] 学校法人大阪夕陽丘学園[1] 学校法人常翔学園[3] 神奈川工科大学[2] 金沢大学[2] 鹿屋体育大学[1] 関西国際大学[2] 関西大学[1] 関西学院大学[1] 神田外語大学[9] 岐阜聖徳学園大学[1] 京都芸術大学[1] 京都産業大学[3] 京都文教大学[7] 共立女子大学[5] 久留米大学[4] 神戸学院大学[1] 國學院大學[1] 国際教養大学[2] 国土館大学[1] 公立大学法人大阪[2] 産業能率大学[2] 芝浦工業大学[4] 島根大学[1]	城西大学[1] 城西国際大学[1] 昭和大学[1] 女子栄養大学[1] 成蹊大学[4] 清泉女子大学[4] 西南女学院大学[1] 摂南大学[1] 専修大学[4] 大東文化大学[1] 拓殖大学[1] 多摩美術大学[1] 千葉工業大学[1] 中部大学[4] 津田塾大学[2] 東海国立大学機構[2] 東京家政大学[1] 東京工科大学[2] 東京電機大学[2] 東京都市大学[2] 東京都立大学[1] 東洋学園大学[2] 東洋大学[14] 名古屋大学[1] 日本大学[2] 日本福祉大学[1] 白鷺大学[1] 広島修道大学[2] 福岡女学院大学[1]	福山大学[1] 文化学園大学[1] 文京学院大学[1] 武庫川女子大学[1] 武蔵野大学[1] 明治大学[2] 立教大学[2] 立正大学[3] 立命館大学[3] 龍谷大学[2] 流通科学大学[1] 琉球大学[1] 麗澤大学[1] 株式会社システムデザイン[1] 株式会社セールスフォース・ドットコム[1] 京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社[1] 京都電子計算株式会社[1] コクヨ株式会社[1] シスコシステムズ合同会社[3] ソフト・オン・ネット ジャパン株式会社[1] 電子システム株式会社[2] 東京コンピュータサービス株式会社[4] 東通産業株式会社[11] 富士電機ITソリューション株式会社[6] 株式会社富士通総研 [2] 富士通株式会社[8] 富士通Japan株式会社[93]
--	--	---

5. 所感（次世代情報システム検討分科会運営委員会）

DXの理解を深め基本を学ぶ目的で次世代情報システム検討分科会と大学経営・情報化戦略分科会との合同での開催となった本分科会には284名の参加があり、関心の高さが伺えた。また内容について、富士通総研からはDXに関する基本的な捉え方、考え方についての講演から始まり、具体的な事例の紹介へと続ける内容となっており、さらに文部科学省からはそれらを踏まえたうえでの文部科学省としての考えを講演いただき、全体的に幅広くDXの基本を学べる内容となった。また意見交換会では様々な視点での質疑応答が行われ、より理解を深めることができる内容となっていた。

また、アンケート結果からもそれぞれ高い満足度が得られており、中でも文部科学省の講演については大変満足、満足を合わせると97%と高く、全体のテーマ設定に関しても94%とアンケート結果からも高い満足であったことが伺える。また、DXに対する理解が深まりましたかという設問に対しては非常に理解が深まった、理解できたを合わせると98%の回答があり、本分科会の目的は達成できたと感じた。

一方で、DXを前進させるための具体的なアドバイスが欲しいなど、次のステップに繋げるための更なる情報収集を行いたいという積極的な意見も寄せられていた。次世代情報システム検討分科会では第2回、3回とより理解を深める具体的な内容を検討中である。

【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果について、詳細版をご覧になりたい方は、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。また、今回の分科会開催に際し、事前アンケートを行っています。事前アンケート結果につきましても、「[CS研・IS研情報交換サイト](#)」に掲載しております。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をするサイトです。

URL : <https://www-std01.ufinity.jp/csiken/>

○情報交換サイトをご覧になるにはIDとパスワードが必要となります。お持ちでない場合は以下のサイトにてお申込みください。

お申込みサイト : <https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/46757>

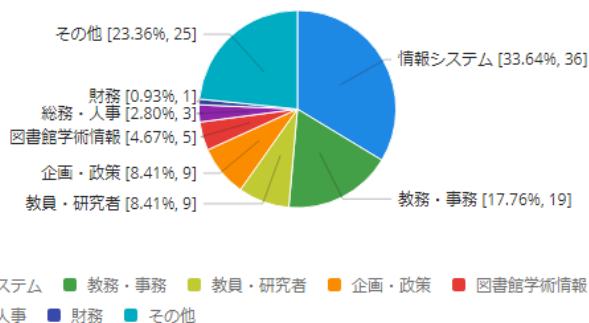
【連絡先】

私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
 富士通Japan株式会社 デマンド創出・カスタマリレーション部内
 E-mail : fj-csken-secretary@dl.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果

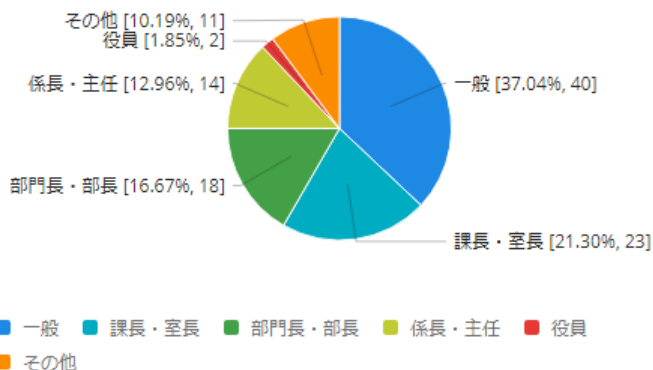
■ 担当業務

担当業務 107件の回答



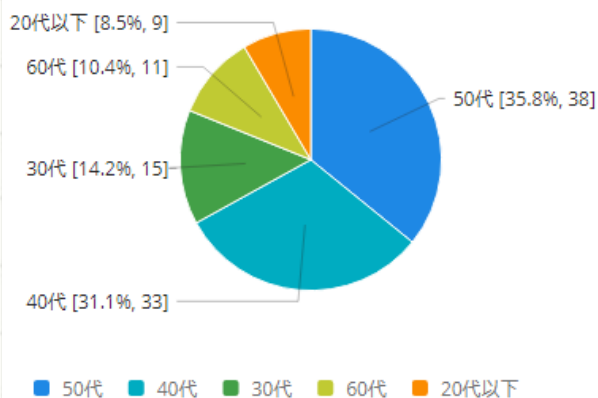
■ 役職

役職 108件の回答



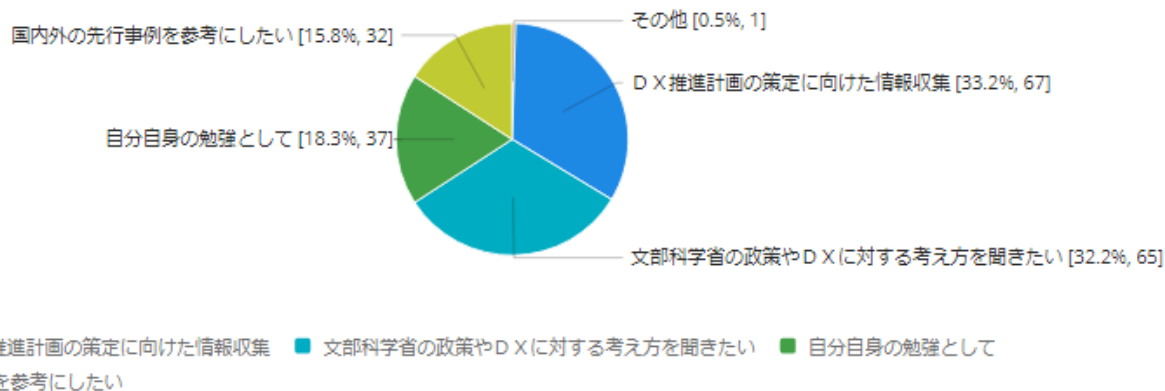
■ 年齢層

年齢層 106件の回答



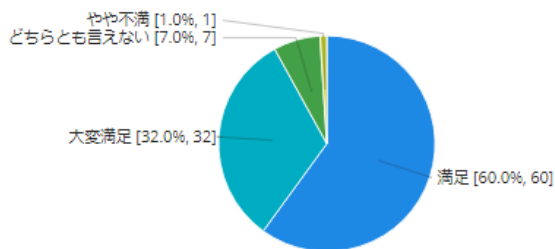
■ 参加の目的

参加の目的 100件の回答



■勉強会全体の満足度

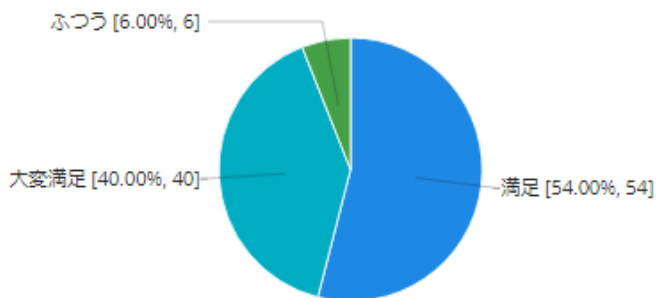
全体の満足度 100件の回答



■ 満足 ■ 大変満足 ■ どちらとも言えない ■ やや不満

■開催テーマの満足度

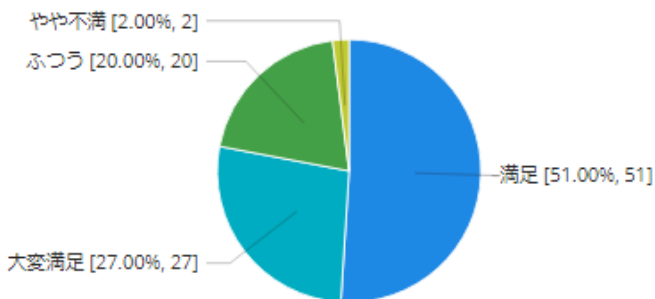
関連テーマの満足度 100件の回答



■ 満足 ■ 大変満足 ■ ふつう

■講師（富士通総研）の満足度

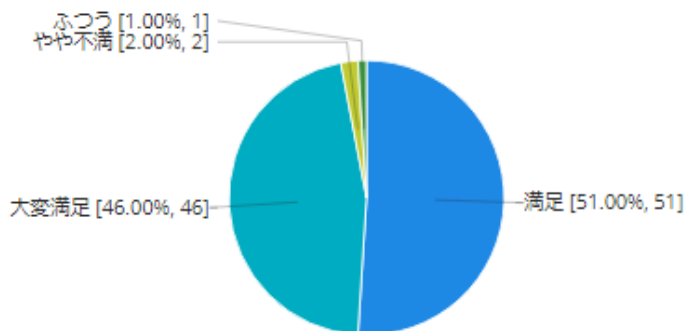
FRI講演の満足度 100件の回答



■ 満足 ■ 大変満足 ■ ふつう ■ やや不満

■講師（文部科学省）の満足度

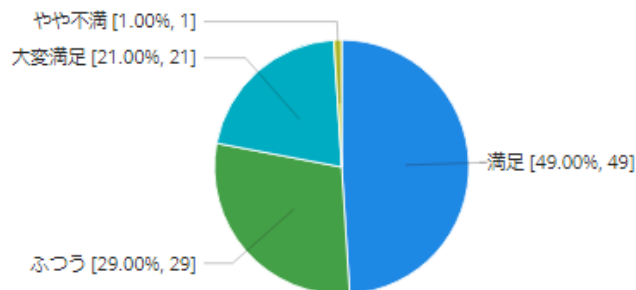
文科省講演の満足度 100件の回答



■ 満足 ■ 大変満足 ■ やや不満 ■ ふつう

■質疑・意見交換の満足度

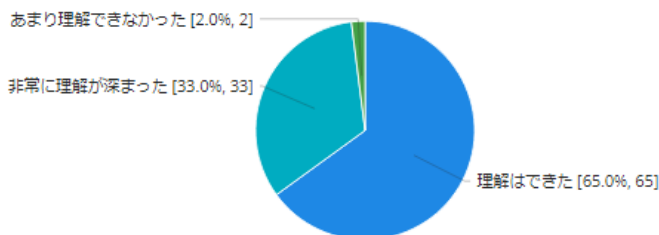
QA/意見交換の満足度 100件の回答



■ 満足 ■ ふつう ■ 大変満足 ■ やや不満

■DXに対する理解度

DXに対する理解度 100件の回答



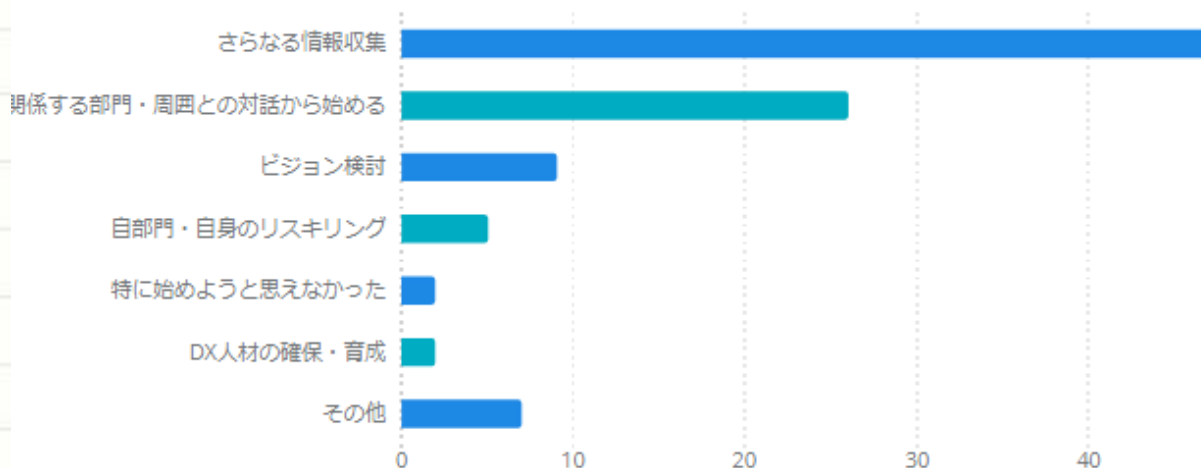
■ 理解はできた ■ 非常に理解が深まった ■ あまり理解できなかった

■本日の勉強会を通して、開催テーマに対して得られた知見(疑問や課題等含めて)

- ✓ ビジョンを明確にすること。デジタル技術より、コミュニケーション。
- ✓ DXはデジタルありきでは無く、あくまでも手段であって目的では無い事が理解できた。
- ✓ 業務（仕事）の見える化・各教職員の目的意識、共通認識
- ✓ 教育DXにおいては、大学組織の可視化ふくめた現状把握、それをふまえての目的、ありたい姿の設定が大切であること、また、情報投資だけでなく、広く関係者の意識変革や体制づくりなど人的準備が大切であることが共有できた。
- ✓ 学内におけるコミュニケーションを行い、あらゆる分野でDXを推進していく可能性がある。DXの概念は、各大学、部署、構成員により思い描く内容が様々であり、幅が広い。そのため、何から手を付けていくかをまずは議論していかないと進まないと感じました。
- ✓ まずは業務の棚卸しと見える化、そしてデジタル化できるかどうか？ により「DXはコミュニケーション」ということが理解できた。

■本日の勉強会を受けての今後のアクション

今後のアクション 98件の回答



■DXに関してベンダーへの期待

- ✓ 企業での取り組みについて得られたメリット・デメリットなど知りたい
- ✓ DX推進の先行事例から実施モデルの投資対効果を概算費用面から提案してほしい。
- ✓ RPAなど具体的手段を盛り込んだ提案と、学校業界特有の業務プロセスを熟知した業務改善
- ✓ システムを売り込むというのではなく、DX化について一緒に考え、そのために必要なデジタル技術を提案していただけること。
- ✓ 完成形の提示だけでなく、それぞれの組織に合わせた段階的な提案。

■次回以降に取り上げて欲しいテーマ

- ✓ 事務業務のDX化について
- ✓ 「授業」「研究」などより具体的な場面・対象についてDXを掘り下げていただければ嬉しいです
- ✓ DXとセキュリティ
- ✓ 学内単独および複数大学で協働して良質なオンデマンド授業の標準化をどのように考え進めるか、組織支援の在り方と教員との連携についてを先行事例から費用面や手順を学びたい
- ✓ 大学横断型のポートフォリオの標準化が企業連携への課題であり、現状は参考程度であり学生が評価される改善への切り口を学びたい
- ✓ DX、IR、教育研究システム（PC演習室等）更改の事例紹介
- ✓ 文科省では高等教育の大衆化を見据えて、キャリア教育の充実をもうろうんでいるように思えるが、高校段階（後期中等教育段階）でもう少しキャリアブック（初任給、必要な学歴知識、資格などを明記した資料）を配布して、指向性を持った大学生を送ってほしい・・・そうした方向性と連動したキャリア教育について
- ✓ DX事例紹介